

令和6年度 貝毒プランクトン出現状況（4月11日現在）

男鹿半島戸賀湾で貝毒の原因とされるプランクトン（渦鞭毛藻 *Dinophysis*属）の出現状況を調査しています（4月から8月にかけて計12回）。

今期最初となる4月11日の調査では、その他の*Dinophysis*属として、*D. infundibula*等が出現しました。

調査月日	水深	水温 (°C)	貝毒プランクトン出現量 (細胞数/L)			下痢性貝毒検査 (イガイ)	
			<i>D. fortii</i>	<i>D. acuminata</i>	その他 <i>Dinophysis</i> 属	検体採取日	試験結果 (mgOA当量/kg)
① 4/11	5 m	10.5	8	12	60		
	10m	10.6	14	21	53		
	20m	10.8	28	8	60		
②	5 m						
	10m						
	20m						
③	5 m						
	10m						
	20m						
④	5 m						
	10m						
	20m						
⑤	5 m						
	10m						
	20m						
⑥	5 m						
	10m						
	20m						
⑦	5 m						
	10m						
	20m						
⑧	5 m						
	10m						
	20m						
⑨	5 m						
	10m						
	20m						
⑩	5 m						
	10m						
	20m						
⑪	5 m						
	10m						
	20m						
⑫	5 m						
	10m						
	20m						

* 貝毒プランクトンの警戒値は*Dinophysis fortii*については200細胞/L（海水1リットルあたり200細胞）以上とされています（安本 1993）

* 下痢性貝毒は、0.16mgOA当量/kgを超えると出荷自主規制するように定められています。